

血虚の可能性と不妊治療

～統合医療コーディネートの場においてできるサポートとは～

小川 久仁子¹⁾ 福田 愛作¹⁾ 森本 義晴²⁾

¹⁾ 医療法人三慧会 IVF 大阪クリニック

²⁾ HORAC グランフロント大阪クリニック

【発表要旨】

中医学でいう血虚とは単なる貧血とは異なり、身体の隅々まで栄養を運ぶ血液が行き渡らない状態であり、精神活動にも影響することは常識となっている。月経・妊娠により女性は血虚になりやすいといわれている。緊張と不安が付きまとう不妊治療において血虚が患者に与える影響は少なくないと思われるが、患者の主訴や舌診・腹診にて血虚を見極めることは容易ではない。

今回、統合医療コーディネートを初めて受ける不妊治療中の女性 90 名を対象に、自覚し得る血虚症状について問診をおこなった。「出現しやすい血虚症状」「妊娠歴の有無による血虚症状の割合の違い」「血虚症状を訴える不妊治療患者の割合」について調査を実施し、妊娠歴のあるグループに血虚症状の訴えが多いこと、対象患者で血虚症状を訴えたのは 70.0%に及ぶことが分かった。不妊患者の血虚の潜在的高さを知り得たことで、私たちが出来得るサポートと今後の研鑽の重要性を痛感した。